

## きみの行く道

だんだん暑さも落ち着いて、秋らしい空気になってきました。

後期も始まり、1年生は前期と夏休みを経験して、少しずつ大学生活に馴染んできたころでしょうか。その他の皆さんも、授業、部活、アルバイト、実験などの研究室の活動、資格を取るための実習、就職活動、個人的な趣味など、それぞれが今やりたいと思うこと、自分にとって必要と思うことに取り組んでいることと思います。もちろん、具体的な行動はあまりしていないけど、身体や心を休めている人、じっくり頭や心の中で考えている人などもあるでしょう。

大学生である皆さんの多くが生きている青年期は、子どもだった自分から大人になっていく時期、親や先生などから学んできた価値観が自分なりの価値観に変わっていく時期、新しい世界や新しい道に一步踏み出す時期です。

そんな青年期の皆さんに、今回は一冊の絵本を紹介します。もちろん成人期の方々にとっても今の自分を振り返ったり、これからの自分を考える機会になると思いますので、ぜひ一度手に取ってもらいたい一冊です。

～きみの行く道(ドクター・スース 作・絵/いとう ひろみ 訳)～

おめでとう。

今日という日は、きみのためにある。

外の世界に向かって、きみは、いま、出ていこうとしているんです。

きみの頭には、脳みそが詰まっている。靴には、足が入っている。

つまり、行きたい方角にちゃんと行ける。行き先は自分で決められる、それが「きみ」。

道をよく見て、見極めるんです。

つまらなそうな道へは行くことはない。

また、行きたい道が見つからないかもしれない。

そんな時は今まで住んでいた街から飛び出して、広い世界の中で好きな道を歩けばいい。

いろんなことが起こるでしょう。

しかし、何が起ころても、だいじょうぶ。  
なやむことはない。どんどん行きなさい。  
きみ自身も変わっていくんだから。

しかし、時にはぶつかったり、ひっかかったりすることが、  
きみに起こらないとは限らない。  
がたがたのスランプ、ちっとも楽しいもんじゃない、真っ暗な場所... どうやって進もうか。  
心を決めることは簡単じゃないことを、残念ながらきみは思い知る。  
きみは途方に暮れて、行きつく場所は「待つところ」にたどりつく....

「待つところ」とは、電車やバス、雨が止んで良い天気になること、電話やLINEなどの人からの連絡、イエスかノーかの答えが出ること、やる気が出てくること、自分に運が向いてくることなど、日常生活にはたくさんあると思います。  
そんな「待つところ」にたどりついた主人公にこの絵本はどんな言葉をかけるのでしょうか？  
その答えは、ぜひ絵本を読んでもらえればと思います。

皆さんは、すでに自分で行く道を決められるし、実際に行くことができます。  
その行程中にはがたがたの道もあるでしょう。  
また実際には一歩も進まずに終わる日もあるかもしれません。  
それでも自分のこと、明日のこと、将来のことを考えているだけで、何かが昨日より変わっていきます。少しずつ進んでいるのです。

総合相談室は、学生生活という道を自分なりに進んで行く皆さんを応援しています。  
もし、そんな自分の行く道のこと悩んだら、総合相談室までご相談ください。

#### 【文献】

『きみの行く道』 ドクター・スース作・絵／いとうひろみ訳、河出書房新社、2008。

専任カウンセラー  
後藤 龍太

令和6年10月1日発行